

＊江戸東京博物館は大規模改修工事のため2025年度中(予定)まで休館しております。



## 令和4年度 新収蔵品の紹介

### CONTENTS

- ・研究の散歩道 吾輩は踊りの名手 歌右衛門
- ・スマートフォンアプリ「ハイパー江戸博 明治銀座編」をリリース！
- ・図書室からお知らせ

令和  
4年度

# 新収蔵品の紹介

令和4年度も多くの博物館資料を収集することができました。その一部をここに紹介いたします。

\*各資料の解説は、須田清香、宇野千都、寺田早苗が担当いたしました。

## 産室の光景を再現 貴重な人形飾り

本資料は、産所の様相をミニチュアサイズで再現した人形飾りです。白地の搔巻布団かいまきに寝かせられた赤ん坊などの人形や道具類が揃っています。箱書には、第11代將軍徳川家斉いえなりの正室広大院こうだいいんが、家斉の死去直後に清水徳川家第5代当主徳川齊疆なやかたの正室に譲つたものと記されています。

道具の一部には、「白絵しろえ」と呼ばれる、白木などの白い地の上に白で文様を描く技法を用いて松竹鶴亀が描かれています。このように、出産の場を用意する道具に「白絵」を施すことは、中世から上流武家や公家の間で慣習となっていました。本資料にもそれが忠実に再現されています。

このような人形の類例は非常に少なく、奥向における産所の様相を知る上で大変貴重です。



御誕生人形 江戸後期頃  
資料番号 22200018~22200033

## 年中行事の華やかなイベント 雛祭

歌川豊国うたがわとよくに(3代)(1786~1864)による12か月の年中行事と美人を描いた錦絵のシリーズ中、弥生の場面です。華やかな着物に身を包んだ女性と子供たちが、3月3日の雛祭を過ごす様子が描かれています。

子供たちは魚や吸物といった雛料理を楽しみ、2人の女性は食事や白酒を運んでおもてなしをしているようです。部屋の左側には立派な雛飾りが見え、女乗物や琴、碁盤といった雛道具が並べられています。

江戸時代に五節句の1つとして催された雛祭ですが、その豪華さは年々増していき、時には幕府から取り締まりを受けるほどでした。江戸時代後期の、優美な年中行事の様子をうかがい知ることができ資料です。



十二月ノ内 弥生雛祭 歌川豊国(3代)／画  
1854年(安政元) 資料番号 22200176~22200178

## 明治期の東京風景写真帖

明治30年~40年代の東京を捉えた写真32枚が貼り込まれた写真帖です。当時話題となった風景が撮影されており、例えば明治31年に通水した淀橋浄水場や、明治37年に鉄橋に架け替えられたばかりの兩國橋が写っています。

左下の写真もその一枚で、常陸山谷右衛門ひたちやまたにえもんとともに明治後期の相撲の黄金時代を築いた、2代目梅ヶ谷藤太郎たにとうたろうの土俵入りを捉えたものです。

彼が立つ場所は、旧国技館が建てられる明治42年以前の回向院の屋外に設けられた土俵で、四方には柱が建てられ、その柱の前には勝負の検査役が控えています。土俵の周りでは沢山の人々が梅ヶ谷の土俵入りを固唾を飲んで見守っています。

本写真帖は、人々の関心を集めた景色をうかがい知るだけでなく、現在は見ることのできない明治期の様子を今に伝える大変興味深い資料です。



明治後期東京風景写真帖  
明治後期 資料番号 22750001



# 吾輩は踊りの名手 歌右衛門

学芸員 西村直子・文

「可愛けりやこそ 神田から通う  
憎うて神田から 通わりよか

この唄は図①上段左側の猫が語っている常磐津節。この団扇絵が世に出た1839年(天保10)に流行した唄でもある。

猫たちは、人のように個性的だ。しかし、ご覧の通り猫に名前はない。ひも解いてみると、冒頭の唄をはじめ当時の江戸風俗が玉手箱を開けたように現れた。ここではその一部をご紹介したい。

まずは、画面後方の朱塗の三本足の見台。猫足のようなだが実は蝟足見台という常磐津の太夫が使うもの。柿色の肩衣、角木瓜の紋も常磐津一門である事を示している。当館では、本資料を

1842年(天保13)頃の刊行と見なしてきた。国芳が猫の戯画を盛んに出した1841〜1842年(天保12〜13)、そして

役者絵の出版が天保の改革の一環で禁じられた1842年(天保13)6月と重なる。だが該当年の歌舞伎関連資料には、常磐津が入る演目で、当てはまるものは見当たらない。

大きな鍵となったのは中心で踊る猫の格好だ。

これが江戸市中で飴を売り歩いた「おまんが飴」と似ている。(図②) おまんが飴は、年齢五十くらい女の女装した男が、菅笠をかぶり赤い前垂れをかけ、冒頭の唄を常磐津風に歌いながら大仰に踊って評判となった飴売りである。



図②『近世商売尽狂歌合』より おまんが飴  
1852年(嘉永5) 資料番号 93200397

踊る猫の左、袴姿の猫には梅の紋が付く。歌右衛門の替紋は裏梅。彼は同年4月の「岩井歌曾我対面 義経腰越状」で、五斗兵衛役を袴姿で演じている。この団扇絵の主人公は、二役の四代目中村歌右衛門であった。

画中の出語り常磐津猫連中の名前も判明した。「岩井歌曾我対面 花翫曆色所八景」の常磐津正本(劇中音楽の台本)が現存し、国立劇場が所蔵している。その表紙に、演奏者、上演場所、主演役者等の名が記される。団扇絵と照合すると、図③のようになる。

団扇販売は、夏の旧暦4月下旬〜6月が最盛期。旬の舞台が話題のこの絵が団扇問屋・伊場仙の店に並んだとき、客は冒頭の唄を口ずさんだらうか。

図①「猫の歌舞伎 出語り図(団扇絵)」  
1839年(天保10) 歌川国芳/画 伊場仙/版 資料番号 06200460



このおまんが飴をモデルに1839年(天保10)3月から4月まで中村座「岩井歌曾我対面 花翫曆色所八景」で四代目中村歌右衛門が演じていた。彼は、飴売り本人に所作を学び、踊った舞台で当たりを得た。江戸市中では大人子供も「可愛けりやこそ神田から通う」の唄を真似たという。図①の踊る猫の袖には、常磐津の紋、角木瓜と歌右衛門の定紋、祇園守を組み合わせた紋が付いている。



図③  
常磐津駒太夫 岸澤文左衛門(上調子)  
常磐津若太夫 岸澤式三(三弦)  
中村歌右衛門(4代) 中村歌右衛門(4代)



図書室の 仕事 Vol.10

図書室から  
お知らせ

## はじまっています！ 閲覧サービス

図書室では、本年3月下旬より、リニューアル準備室にて事前予約制の閲覧・複写サービスを開始しております。詳細はホームページのメニューバー「図書閲覧・蔵書検索」の「図書閲覧のご案内」をご確認ください。

あらかじめ本を選んで、お申し込みいただいたのご利用となります。予約はホームページの「予約専用フォーム」だけで

なく、電話でも受け付けています。

当館図書室で所蔵する本やマイクロフィルムがみたい！という方々に改めて感謝申し上げます。限られたスペースとサービスになりますが、途切れることなく利用者みなさまとの接点が保てるということを図書室としてもうれしく思っています。



リニューアル準備室内 図書閲覧室

### スマートフォンアプリ「ハイパー江戸博 明治銀座編」をリリース！

昨年公開しご好評いただいたスマートフォンアプリ「ハイパー江戸博」の第2弾となる、「明治銀座編」を4月26日にリリースしました。本作では明治の銀座煉瓦街を3DCGで再現。プレイヤーは明治の初めから終わり頃まで、4つの時代に分かれた銀座の街を巡りながら、当時の文化や流行にまつわる収蔵品100点を集めます。時代ごとに変化する街並みを眺めつつ、食や交通手段、ファッションなど現代につながるさまざまな事物のはじまりを学べる内容になっています。是非ダウンロードして、明治への時間旅行をお楽しみください。

(学芸員 沓沢博行)



アプリの  
ダウンロードは  
こちらから



### えどはく移動博物館 活動報告

昨年度より、学芸員がさまざまな場所へ出向き、ワークショップや出張展示をおこなう「えどはく移動博物館」を開催しています。5月に開催した「えどはく移動博物館 in 伊豆大島」の様子や、学校での出張授業に参加した子供たちの反応を、ブログ「職員日誌」でご紹介しています。ぜひご覧ください。



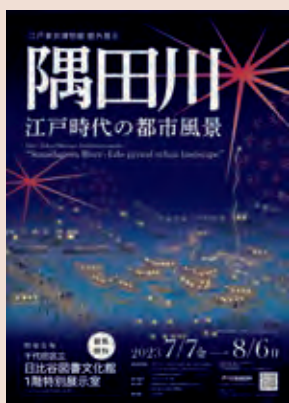
ブログページは  
こちらから



### 館外展示を開催

江戸東京博物館  
館外展示「隅田川ー江戸時代の都市風景」  
2023年(令和5)7月7日(金)～8月6日(日)  
会場:千代田区立日比谷図書文化館 1階 特別展示室  
入場料:無料

江戸の名所として深く愛され、親しまれてきた隅田川について、当館収蔵品を中心に紹介。また、会場となる千代田区の貴重な文化財のうち、紀伊国屋三谷家コレクションより、歌川広重(2代)や歌川豊国(3代)が手掛けた作品も展示します。デジタル図録では展示作品全てをご覧いただけます。



※展示会の詳細はHPでお知らせします。

### 伝統芸能公演

都内の他館ホールから「観る・学ぶ・楽しむ えどはくスペシャル公演」と題して伝統芸能公演を年4回実施します。詳細はHPにて。

#### 第1弾 「日本舞踊とクラシックとの出会い～夏～」

- 2023年(令和5)7月22日(土)  
①14:00～ ②17:00～
  - 2023年(令和5)7月23日(日)  
①11:00～ ②15:00～
- 会場:東京芸術劇場 シアターウエスト  
入場料:無料 ※事前予約制



日本舞踊公演

#### 第2弾 「おたのしみ寄席とワークショップ」

- 2023年(令和5)8月13日(日)  
11:00～ 落語ワークショップ(2階レクリエーションホール)  
14:00～ おたのしみ寄席(1階劇場ホール)
- 会場:墨田区曳舟文化センター 入場料:無料 ※事前予約制  
※第3弾・第4弾についても開催に向け準備中です。ご期待ください。



### 休館情報

当館は2022年(令和4)4月1日から2025年(令和7)度中(予定)まで大規模改修工事のため休館中です。休館中も館外の他会場等を活用した事業を実施しています。詳細につきましては確定し次第、ホームページやSNS等でお知らせいたします。